Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Complete thoracoscopic S9 or S10 segmentectomy through a pulmonary ligament approach

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉川, 拓磨 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31328

主　論　文　の　要　旨

Complete thoracoscopic S9 or S10 segmentectomy through a pulmonary ligament approach　肺靭帯アプローチによる完全鏡視下 S9/S10 区域切除術

東京女子医科大学外科学（第一）教室
（主任：大貫恭正教授）
吉川　拓磨

The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery, In Press

【要　旨】

肺靭帯は、胸膜と胸膜が合わさった組織で、容易に肺下葉実質に分け入ることができる。葉間からの剥離を必要としない全く新しいアプローチ法である S^9 及び S^{10} の区域切除術を行った。2009.3 から 2013.9 までに胸部 CT で S^9 もしくは S^{10} に位置する 2 ㎝以下の結節影を認め、胸腔鏡下に S^9 及び S^{10} 区域切除術を施行した 23 例を対象とした。平均年齢は 62 歳。転移性肺腫瘍 13 例、早期小型肺癌 8 例、良性腫瘍 2 例であった。全例完全胸腔鏡下手術で施行し、S^9 区域切除が 6 例、S^{10} 区域切除が 8 例、S^9＋S^{10} 区域切除は 9 例であった。平均手術時間は 188 分。平均出血量は 66 g。ドレーン留置期間は平均 3.7 日であった。S^9 や S^{10} の気管支、肺動静脈は、肺実質奥深くで分枝しているため、S^9 や S^{10} の区域切除は難易度が高いが、肺靭帯からアプローチすることで、肺の分葉に関係なく区域切除を施行でき、最短距離で目的の肺動静脈、気管支へ到達可能であった。葉間からの剥離を必要としない新しいアプローチ法で、完全鏡視下 S^9 及び S^{10} の区域切除術を行い良好な結果を得た。